




(様式3)

平成29年度「オリンピック・パラリンピック教育推進校」

事業実施報告書

実践事業	【Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ】	Ⅰ～Ⅴを記入して下さい。	
学校名	京都市立 日吉ヶ丘 高等学校	全校生徒数	713名
実践学年	第2学年 (男子 78名・女子160名)		
目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験や交流試合、選手たちとの対話を通じて障がい者に対する理解を深め、人権意識を高めて、自分の生き方を考える機会とする。 ・社会がどう変われば障がいのある人々が住みやすくなるかを考える機会とする。 ・車いすバスケットボール競技を通して、2020年オリンピック・パラリンピックへの関心を高める機会とする。 		
実践内容	<p>1 事前学習</p> <p>(1) 事前アンケート・体験生徒及び介助生徒の選出 (2) テレビ番組「めざせ2020年のパラリンピアン」の鑑賞 車いすバスケットボールのパラリンピック日本代表選手で、生徒たちと年代である大学1年生の鳥海連志選手のドキュメンタリー映像を視聴と人権学習のために実施した事前アンケート結果を踏まえ、障がいや障がい者スポーツへの理解を深めました。(11月15日LHR)</p> <p>2 車いすバスケットボール体験(11月22日)</p> <p>(1) 選手紹介・競技説明・模範演技 車いすバスケットボールの競技としての特性や練習・試合方法などを実際のプレイを見ながら学習しました。</p> <p>(2) 車いす体験(クラス対抗試合) 生徒代表による車いすバスケットの試合をしました。なかなか思うように動けずパスミスやシュートミスが多いのですが、なかにはかなりいい動きをする生徒もいました。予定外の先生チームもでき、生徒と試合も行いました。</p>		
			

	<p>(3) 選手代表の体験談・質疑応答 選手のお話を全員で聞いた。病気や怪我の経験、車いすバスケットボールとの出会い、生徒たちへのメッセージ等、生徒たちはとても感銘を受けた様子でした。</p> <p>(4) 生徒代表からのお礼の言葉</p> <p>3 事後学習</p> <p>講演後の感想文と事前アンケートをもとにもう一度考える。</p>
実施上の留意点等	<p>本校の英語村（学内留学体験施設）の取組みと時期を合わせて実施しました。昼休みを中心にオリンピック・パラリンピックの試合の様子の映像を流したり、クイズを行ったりして生徒の意識を高める取組みを実施しました。</p> <p>また、京都府国際友好大使の方々（アメリカ、中国、イギリス出身）に来ていただき英語で過去のオリンピック開催国としての内容の講演をしていただきました。</p>
主な成果 (分析結果)	<p>事前アンケートでは、障がい者スポーツに興味がある103人、興味がない132人でした。車いすバスケットボールの体験や貴重な体験談を通して、知ること、見ること、感じること、人と付き合っていくことで自分自身も変わっていくことに感じてくれたことが分かりました。</p> <p>生徒の感想文の中から、いくつかを要約して紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に車いすバスケットを体験して、車いすの操作に一苦労でその上にバスケットをする難しさを実感しました。選手の方々がとても明るく、イメージが変わったと思います。この学習を通して生きることの大切さ何事もあきらめずに取り組む姿勢を学びました。 ・前向きに考えて努力したという話を聞いて、どんな状態でもあきらめないことは大切だと改めて思いました。また、車いすの人たちや体に不自由がある人たちがいるということを忘れずに、友達としゃべりながら自転車を運転しない、スピードを上げすぎないよう気をつけようと思いました。 ・リオパラリンピックをTVで見てから自分で種目やルールを調べたり、昔のパラリンピックの映像を見たりと興味を持っていたので、とても嬉しかったです。初めて間近で見たので、スピードの速さやターンの迫りに驚きました。2020年の東京パラリンピックも今日みたいに近くで見たいなと思いました。 ・私は将来、作業療法士に就きたいと思っています。体験やお話がとても勉強になりました。事故や病気で身体や精神に障害を持ってしまった方の心情を理解し障害とどのように向き合うことについて考えさせられました。一番印象に残ったことは誰かの呼びかけで世の中が広く見えることです。私も自分の一言で誰かの支えや助けになれたらいいなと思いました。
次年度以降への課題等	<p>競技用車いすを借りる場合の、他校との日程調整や運送費用の問題</p>